

千里を行く――



KIMASSI

KANAZAWA

KANAZAWA TOIYA CENTER QUARTERLY NEWS

2022年1月

金沢問屋センターニュース

Vol.142
January

新年互礼会

BCPセミナー報告

2022年度の経済見通し

寅年男大いに語る

事務局だより



事務局だより

INFORMATION



10月

●4日 理事会

1. 総務委員会より

(1) 組合員の加入について

2. 組合運営委員会より

(1) 町内一斉清掃について

(2) 不燃物有料回収について

(3) まん延防止等重点措置について

3. 厚生委員会より

(1) インフルエンザ予防接種について

(2) 弓取保育園の入園申し込みについて

(3) 第17回キマシカップ・オープンゴルフについて
(結果報告)

(4) 新型コロナワクチン接種について(結果報告)

4. BCP委員会より

(1) 商団連卸商業団地機能向上支援事業について

(2) 金沢市卸売業基盤整備強化モデル支援事業について

5. 街力発信委員会より

(1) イベント事業について

(2) 作品買い上げ補助金制度について

6. 青年部会より

(1) 9月定例会について

(2) 10月定例会について

11月

●2日 理事会

1. 総務委員会より

(1) 出資金見合いの緊急融資について

2. 組合運営委員会より

(1) 町内一斉清掃について

(2) 会館料金や運用規定見直しについて

3. 厚生委員会より

(1) インフルエンザ予防接種について

4. BCP委員会より

(1) 商団連卸商業団地機能向上支援事業について

(2) 金沢市卸売業基盤整備強化モデル支援事業について

(3) 広報誌第141号について

5. 街力発信委員会より

(1) イベント事業について

(2) 学童野球支援事業について

6. 青年部会より

(1) 10月定例会について

(2) 11月定例会について

●25日 BCPセミナー

「命を守る、事業を守る、地域を守る心構え」

名古屋工業大学大学院教授 渡辺 研司氏

●30日～12月2日 インフルエンザワクチン接種

延べ1009名受診



12月

●3日 理事会

1. 総務委員会より

(1) 中間決算について

(2) 新年祭について

(3) 新年互礼会について

(4) 景況調査について

(5) 生活習慣病予防健診について

2. 組合運営委員会より

(1) 段ボールの収集について

(2) 会館利用料の推移について

(3) 電気料金見直しについて

第14回 石川県新人学童野球選手権大会 兼
協同組合金沢問屋センター旗争奪大会

中条ブルーインパルス 2年ぶり4度目の優勝

11月23日、12月12日、18日、19日に小松ドームで県下16チームが参加し、5年生以下の新チームでは初めての県大会として開催されました。11月23日の開会式では、宮地学童野球連盟会長に続いて当組合の高桑理事長が挨拶を述べ、参加選手を激励しました。

12月19日の決勝戦では、中条ブルーインパルス(河北支部)と十一屋ファイターズ(金沢支部)が激突!接戦の末、中条ブルーイ

選手の健闘を称える
大西副理事長(閉会式にて)。

ンパルスが十一屋ファイターズを5対2で破り、2年ぶり4度目の優勝を果たしました。

閉会式では、宮地学童野球連盟会長が優勝チームに、大西副理事長が準優勝チームの選手一人ひとりにメダルをかけ、それぞれのチームの健闘を称えました。その後優勝、準優勝チームがグラウンドを行進し、大会を終えました。



お知らせ

流通会館で 展覧会開催を予定!

会場 ■ 金沢流通会館

期間 ■ 2月15日(火)～20日(日)

今年の問屋町活性化事業のイベントとして、金沢美術工芸大学大学院修士課程1年の有志による展覧会を計画中。作者による鑑賞会なども実施の予定です。学部生にはない発想や感性に触れる機会です。ぜひお見逃しなく!

編集後記

2021年は一昨年に続き、コロナ禍に振り回された年でした。延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックは無事閉幕したものの、史上初の無観客開催となり盛り上がりに欠けました。感染防止のための生活様式の変化、ワクチン接種と副反応に対する疑問や混乱等々、さまざまな苦難を乗り越えてきた日本ですが、ここへ来て「第6波」の様相が濃くなってきました。そして、全国各地で連日のように起きる地震。金沢も安全ではないと分かっているが、目の前で起こらないと対策できない現実があります。コロナに加え、地震や津波など自然災害の対策を早急に確立しなければならないと思います。

さて、今年の干支は「壬寅」です。「壬」は厳冬、静謐、沈滞などを表し「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しているとか。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれるというイメージなので、2022年が活気がある希望に満ちた年になるように精進していきたい。(T.K)

新年あけましておめでとございます。2022年の新春を迎え、皆さまに謹んでお祝い申し上げますとともに、旧年中賜りましたご厚情に対し心より御礼申し上げます。

2021年度の振り返り

昨年の海外経済を振り返りますと、米国や欧州主要国でワクチン接種が進展したことにより、米国のインフレに景気の回復基調が強まりました。米国では雇用・所得情勢の改善を受けて、物価上昇が続く中でも個人消費は堅調に推移しました。米国金融市場では、NYダウ平均株価が11月に最高値を更新するなど年初から大幅に上昇しました。また米連邦準備理事会(FRB)は、高インフレの警戒感から量的金融緩和の資産購入規模の縮小(テーパリング)を11月から開始し、金融政策の正常化に向けて動き出しました。

次に国内経済の方に目を向けますと、経済正常化に動き始めた米国とは対照的な動きになりました。東京



供給面が改善し、消費が持ち直す一年に懸念材料は物価高の継続

オリンピック・パラリンピックが9月に無事閉幕したものの、7〜9月の実質GDPは前期比0.8%減、年率換算で3.0%減となり、2四半期ぶりにマイナスに転じました。主な需要項目の前期比を見ますと、個人消費は夏場に見られた感染急拡大に伴う行動抑制の影響により、1.1%減と2四半期ぶりにマイナスとなりました。設備投資は3.8%減となりました。半導体不足など供給面での制約が、製造業を中心とした企業部門の活動を押し下げる結果となりました。

2022年度の見通し

米国経済については、供給制約に伴う自動車の在庫不足等が解消されれば個人消費は回復基調が続くと思われれます。企業の景況感もサービス業を中心に持ち直しつつあることから、コロナ禍で落ち込んだ反動による高い回復スピードからは鈍化すると思えますが、今年も底堅い動きが続くものと予想しています。金融面ではテーパリングに向けた動きが加速し、年後半には政策金利の引上げが実施されると予想しています。消費者物価次第では利上げについても前倒しとなる可能性が想定されます。米国金利の上昇は米国との内外金利差を拡大させ、自国通貨安ドル

高を招く可能性があります。その結果、原油等の輸入品の価格が高騰し物価高に陥る懸念があるため、注視する必要があります。

コロナについては、新型コロナウイルスの新規感染者が増加傾向にあります。英国では夏場の感染拡大以降も大きく減少することなく高止まった状態が続いているほか、ドイツやフランスでは昨年10月半ば以降、急ピッチで感染拡大が進んでおり、イタリアやスペインも増加傾向に転じています。そのため、行動制限措置が強化され個人消費が弱含む可能性があります。

中国については、2月に開催される北京冬季五輪に欧米諸国が相次いで外交ボイコットを表明しており、その影響が懸念されます。中国が経済を絡めた報復措置として、欧米製品の不買運動や、中国に進出してきた欧米企業への締め付け、レアアースなどの禁輸措置等を講じる可能性が考えられます。また、不動産大手である中国恒大集団の過剰債務問題の先行きも依然不透明なままであり、その影響が懸念されます。

このような海外情勢の中、国内経済については、新型コロナウイルスの感染状況の改善に伴う活動制限措置の緩和により供給面が改善され、消費が持ち直すと予想しています。昨年11月に岸田内閣が発表した経済

対策は、財政支出が55.7兆円と過去最大規模であり、国内景気を一定程度下支えすると見込んでいます。しかしながら、新型コロナウイルスの変異株の感染状況によって、再び労働市場での働き手の減少に伴う供給不足から物価高が続き、個人消費が停滞局面に陥る可能性もあるため、この点については引き続き注視する必要があります。

最後に石川県の景況ですが、足元では全国トップクラスの有効求人倍率1.52倍となるなど雇用・所得環境が改善しているほか、新型コロナウイルスの感染者減少や県の観光需要の喚起策等により、消費の持ち直しの動きが徐々に拡がると思われる。企業部門においても、供給面の制約を受けながらも、生産額の増加や生産性向上や省力化を目的とした設備投資が増加すると思われれます。新型コロナウイルスの新たな変異株の出現などの懸念はありますが、総じて回復基調になると思われれます。そのような中、私ども金沢信用金庫も組合員の皆様のお力になれるよう、懸命に汗をかきたいと考えています。

最後になりますが、年頭にあたり、皆さま方ますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げますとともに、本年も昨年同様にご指導賜りますようお願い申し上げます。

金沢信用金庫問屋町支店

支店長 澤口 克宏

2022年 新年互礼会 華やかに、和やかに 新年互礼会を開催



130名以上の参加で新しい年がスタート

令和4年1月4日(火)、金沢流通会館にて新年互礼会を挙げる。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止対策等をしつかりと講じながらの開催となりました。不透明感が増す経済情勢のなか130名を超える参加を頂き、新年にふさわしい華やかなスタートを切る事ができました。また、例年同様、多くの来賓をお迎えして、開催で



高桑理事長が当組合の取り組みについて説明。

ご来賓の皆様から
ご祝辞を賜りました。



谷本正憲石川県知事
駅西地区の発展と
コロナ禍の需要喚起策について



山野之義金沢市長
奨学金に対するの
新たな政策について



小森卓郎衆議院議員
初当選の御礼や
早急な補正予算の編成について



岡田直樹参議院議員
副官房長官としての
オリンピック開催について



安宅建樹金沢商工会議所会頭
ビジネススタイルの変化と
デジタル化の支援について

きたことを報告いたします。国家斉唱、三廓合同のご祝儀に行いました。新型コロナウイルスのワクチンについては1300名超、インフルエンザワクチンについても1000名を超える方々に接種を行ったことを報告するとともに、直近の流通会館の利用状況についても現況を伝えました。さらに、現在進めている連携事業継続力強化計画やBCPについて触れ、これらの取り組みには災害対策だけでなく、感染症や事業継続対策にもつながる要素があると説明しました。

引き続き同会場で行われた懇親会では、乾杯の音頭を石川県中小企業団体中央会山出保会長より頂きました。コロナの影響だけでなく、様々な物品が手に入らなくなってきたという状況も油断できないとお



話を頂きました。中締めは株式会社北陸銀行金沢問屋町支店吉田宏明支店長に行っており、無事お開きとなりました。

乾杯のご発声は石川県中小企業団体中央会山出保会長。

BCP 取り組み報告

経済産業省 連携事業継続力強化計画を申請、認定

今年度も金沢市卸売業基盤強化モデル支援事業として、BCPの重要性を啓発するためのセミナーを開催。このセミナーなどをもとに、組合として経済産業省「連携事業継続力強化計画」の申請を行い認定されました。コロナ禍で不安定な状況が続く中、多数の組合員企業にご賛同を頂き、誠にありがとうございました。

また1月13日(木)には、商団連卸商業団地機能向上支援事業の報告会を開催し、昨年度からの事業について総括を行いました。なお、この事業の報告書を近日中にお配りできるよう準備を進めています。

11月25日BCPセミナー (講師:渡辺研司氏)



12月3日BCPセミナー (講師:長田英希氏)

寅年



男大いに語る

今、ここで

経営に携われている そのことに感謝



株式会社牧野太郎商店
代表取締役
大西 宏明

新年明けましておめでとございます。組合員企業の皆様には日頃からお世話になりありがとうございます。「当たり前」のことが当たり前ではなくなるのを実感することが多い昨今、こうして祝賀を申し上げられること自体が、本当にありがたいです。

私は昭和49年生まれの年男です。タイヤショップと、倉庫業としてのタイヤ保管を中心とした商売をさせて頂いております。この仕事は「下足番」と共通するところがあるのではないかと考えます。下足番は、料亭などで客が脱いだ靴を管理するわけですが、靴の状態や靴底の減り方などを見て、持ち主の性格や考え、健康状態までも感じ取ることができるところです。

性的ほかに運転者のクセや性格も表れることがあります。社用車であれば、車両の様子から従業員さんのお仕事の様子や社風までも何となく感じられることもあります。このコロナ禍では業況の良さ悪しもタイヤの摩耗度合いから感じられました。

クルマの足元を通して世の中を見ているような私ですが、そのクルマの足元に大きな変化が起こりつつあります。通信機能を備えたチップが埋め込まれたタイヤの市販化が目前です。空気圧や摩耗状況などを、ドライバークル管理がスマホ等でリアルタイムで知ったり、問題発生前に注意が寄せられる仕組みが普及します。大手タイヤメーカーは軒並み「モノ売り」からソリューションビジネスプロバイダーへの変革を進めています。

この変化の波は、地方の零細タイヤ店にも例外なく押し寄せてきます。こういう時機に経営を預らせて頂けるなんて、エキサイティングですよ。一年未熟な私を支えてくれる皆さまに感謝の想いが湧きます。毎日健康で仕事ができることについて、妻と母親に感謝を伝える年の瀬でした。

どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

人として 成長するために



株式会社マルシン
専務取締役
丸岡 明弘

新年明けましておめでとございます。協同組合金沢問屋センターの各組合員企業の皆様には日頃よりお世話になり誠にありがとうございます。

昭和49年生まれ年男の年男でございます。歴代の年男の方々の文章を読ませて頂きましたが、とても立派にまとめてあり、正直何を書いたらいいか悩みました。ですが、せっかくこういう機会を頂きましたので、自分がこれからどういう人になつていきたいかを考えていきたいと思っております。

これからは、人と接する時、会話する時はまず相手の立場にたって考えてみることで、企業の中には、若い方、年配の方、管理職、会社役員、社長といろいろな立場の人が働いていますが、全員が自分の立場だけで意見を出し合ってもまとまらないと思います。企業を良くするためには、それぞれの立場の意見を理解し話し合い、一番良い方法で問題を解決していかねばなりません。これは商売の時にも、非常に大事なことだと思います。

私も今の役職に就くまでいろんな立場を経験していますが、その経験だけでなく現在の相手の立場に立って真剣に考えていこうと思えます。「企業は人なり」と

心持ち一つ



成瀬電気工事株式会社
専務取締役
成瀬 栄三郎

皆様、新年明けましておめでとございます。日頃より問屋センターの皆様には大変お世話になっており誠にありがとうございます。昭和49年生まれの年男です。今回このような機会を頂きありがとうございます。

「虎」でふと思いついたのは、最初の年男(当時は年男の認識もなかったですが)1986年の年末に「白虎隊」というドラマに衝撃を受けたことです。白虎隊とは、戊辰戦争の際、会津藩が組織した10代半ばの若者の部隊です。彼らが若くして命を落とす姿に、こんな時代があったのかと戦の高揚感と非情さを子どもながらに感じました。それが歴史に興味を持つきっかけになったのを覚えております。4回目の年男を迎え、歴史を紡いできた方々がいて今があり、この平和な時代に生まれ不自由なく過ごしてきたことに感謝したいと思えます。そしてその次の世代に、頂いてきた恩を送らなければいけないと改めて思っております。

変化を恐れず精進



川上産業株式会社
代表取締役
茨木 陽介

新年あけましておめでとございます。協同組合金沢問屋センターの皆様には平素より大変お世話になり誠にありがとうございます。

私は昭和61年生まれの36歳。昨年9月に川上産業株式会社の代表取締役に就いた、就任一年目の年男となります。前回の年男の頃を振り返るとこの12年間で自分や社会の情勢、人々の価値観等、様々な変化があったように思います。

先日、伝統的な加賀野菜を栽培されている農家を訪問させて頂きました。昔から変わらない伝統野菜というものの、近年は気候や環境が変化しており昔と同

万事塞翁が馬



協同組合金沢問屋センター
課長
脇田 大志

組合員や団地内企業の皆様、公共・経済団体の皆様、そして全国の商団連加入

第1回 金沢ビジネスエコ アクション賞受賞

当組合は、事業所から出るごみの減量化・資源化推進のため模範となる優れた取り組みを行っているとして「金沢ビジネスエコアクション賞 資源化部門」を受賞しました。

この表彰制度は、事業者の意識向上を目的として今年度から新たに創設されたもので、栄えある第1回を見事受賞することができました。次年度も実施されるそうなので、組合員の皆様もぜひ応募してはいかがでしょうか。



山野金沢市長(左)から高桑理事長に表彰状が授与された。

さて、年男は良いことにしろ、悪いことにしろ、どちらの運氣も倍になると言われております。また多くの課題に直面するとも。本年は、どのような事があるうとも自分の心持ち一つで何とでもなると強く意識していきます。陽をテーマに困難もチャンスに変える、常に前向きに明るく過ごし運氣を上げていきたいと思っております。陽の運氣で周囲に良い影響を与える、そんな一年にしていきたいです。

私自身問屋センターのメンバーとして多くの経験をさせて頂いたことに感謝をし、日々精進していきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

組合の皆様、新年おめでとございます！元氣よく挨拶をしましたが、日頃は「広報誌に原稿を書いて」や「インタビューをさせて」が口癖の私が、自ら原稿を書くことに若干憂鬱な気分になっております。

普段あまり自身について語ることも少ないので、この場を借りて自己紹介させて頂きます。よく周囲の人間から「ネガティブすぎる」や「非常にポジティブ」と言われます。一見矛盾しているようにも感じますが、天邪鬼なのでどちらも合っていると思っております。どのような事柄がプラスに働くか、マイナスに働くのかわからないことが多く、一寸先は闇だとも思っています。

今回のコロナ禍と言われる状況は、変化が激しいことは皆さまも感じていると思います。「変化はチャンス」と一概には言えず、ピンチに陥ることも当然ありますが、その中でも、必ず窮地を脱することが出来る脈があるはず。裏を返せば、盛者必衰。調子が良い時は、悪くなることも想定しなければなりません。

昨年は大谷翔平選手の二刀流の大活躍、藤井聡太八段の四冠獲得という、小説や漫画でも書けない偉業がありました。また、新型コロナウイルス感染症拡大リスクがここまで続くとは、多くの人が予測できなかったのではないのでしょうか。何があるかわからない、だからこそ常にアンテナを張り巡らせ、積極的に行動することを心がけながらも、リスクヘッジを着実に、休むときはしっかりとダラダラ寝て過ごすこと。これが私の礎だと思えます。

最後になりますが、これからも苦しく辛いことも、明るく楽しいことも皆様と少しでも共有できればと思えます。若輩ものですが、「指導ご鞭撻よろしくお願